

年賀状の新しい可能性

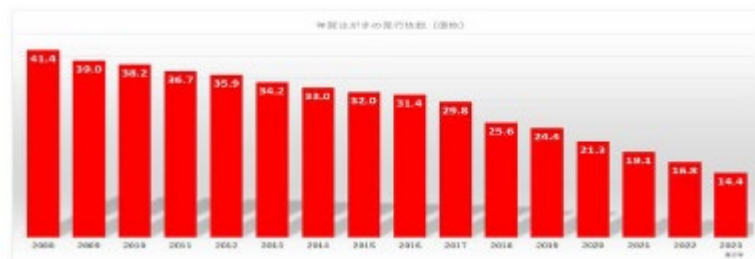
北野優真（兵庫県立北摂三田高等学校）

研究動機

- ・年賀状を出す機会が個人的に少なくなる
 - ・年賀状の料金が2024 年の10 月1日以降63 円から85 円に値上がりする
- デジタル社会が進む中、年賀状を出す人が減少する
→いずれは年賀状を書く人がいなくなるのでは？
年賀状という文化を残す対策はあるのか？

先行研究・事前調査・研究テーマ

1、年賀状の現状の把握



→2008～2023年までの発行枚数の減少
＝全体的に利用する枚数が減少

興味や関心がある人・ない人の差
はあまり変わらないが、年賀状の
発行枚数が減っていることを知っ
ている生徒が多い
→年賀状を利用する機会が少なく
なっていると実感しているから
では



年賀状の使用率が減少している背景にお年玉くじの存在を知らないのではないか

使用率が減少している

→お年玉くじで当たる確率がそれ
ほど高くなく、年賀状にかかる
お金の負担が大きいと考えられ
る



北三の生徒が年賀状に対する意識や考え方を調査

→調査をもとに年賀状のメリットや有用性を探求する

研究手法

1、年賀状に関する文献調査

- 2、年賀状に対する意識調査アンケートを生徒に実施
- 3、アンケートをもとに年賀状の特徴や利点を把握する

研究結果

新年の挨拶を何で受け取ったか

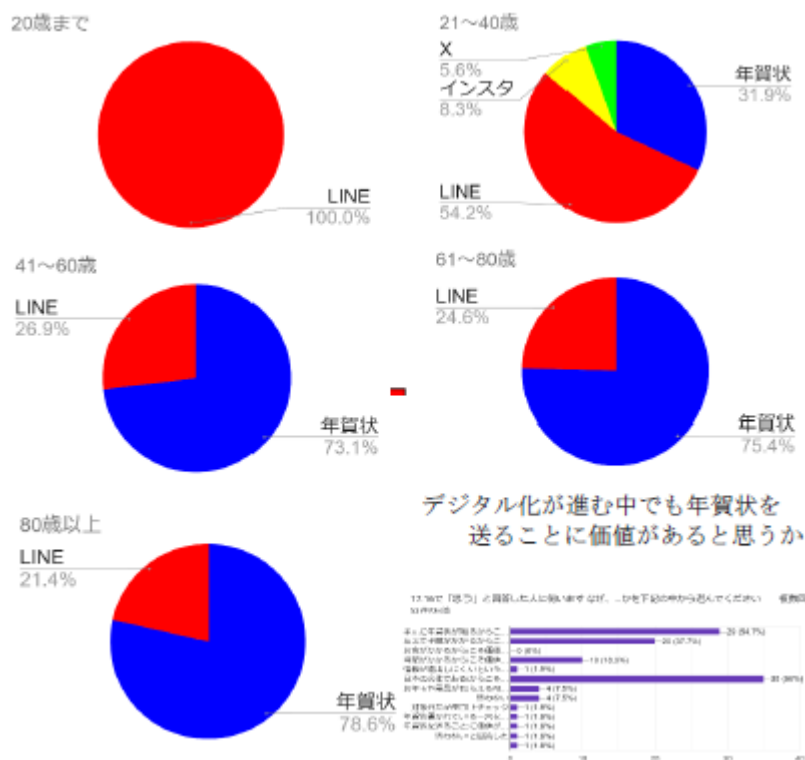


新年の挨拶を何で送ったか



2021 年のときは年賀状の割合が両方とも多く、
2024 年のときはLINE の割合の方が高くなっている
→年賀状の使用率の低下・新年の挨拶の簡略化がみられる

下記の世代に北三の生徒がどのような手段で新年の挨拶を行うか



まとめ・展望

- ・年賀状の発行枚数の減少

⇒値上がりするとさらに利用率が減少する

- ・世代別に新年の挨拶をするときには使い分ける

⇒年賀状は相手と適切な距離をとることができる

- ・高校生に向けて年賀状のデザインなどの意見を多くとり、高校生に人気のある年賀状を作るはがきの年賀状とデジタル年賀状を比較した場合、受け取ったときにどちらが

参考文献

[1]https://www.post.japanpost.jp/service/2024fee_change/index.html ←日本郵便株式会社

[2]www.rakuten.co.jp/年賀+はがき+枚数